財務局
Regional Finance Bureaus

希望ある未来へ　地域と歩む　北海道財務局

管 内 経 済 情 勢 報 告

令和8年11月

北 海 道 財 務 局

【問い合わせ先】
財務省北海道財務局 総務部 経済調査課
電話011（709）2311（内線4381）

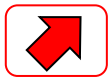
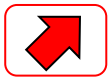
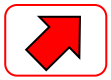
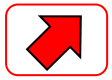


北海道財務局
公式マスコットキャラクター
「きたまるん」

最近の北海道財務局管内の経済情勢

	前回（８年７月判断）	今回（８年１０月判断）	前回比較	総括判断の要点
総括判断	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しの動きに一服感がみられる。観光は、緩やかに拡大している。

〔先行き〕 先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を引き続き注視する必要がある。

項目	前回（８年７月判断）	今回（８年１０月判断）	前回比較	備考
個人消費	持ち直している	緩やかに回復しつつある		上方修正は、令和７年１月判断以来、７期ぶり
観　　光	緩やかに拡大している	緩やかに拡大している		
生産活動	弱含んでいる	一進一退の状況にある		上方修正は、令和６年７月判断以来、９期ぶり
雇用情勢	持ち直しの動きに一服感がみられる	持ち直しの動きに一服感がみられる		
住宅建設	弱い動きとなっている	弱含んでいる		上方修正は、令和６年７月判断以来、９期ぶり
設備投資	８年度は減少見込み	８年度は増加見込み		増加見込みは、令和８年４月判断以来、２期ぶり
公共事業	前年を上回る	前年を下回る		前年を下回るのは、令和８年１月判断以来、３期ぶり
企業の景況感	「下降」超となっている	「下降」超となっている		
企業収益	８年度は減益見込み	８年度は減益見込み		

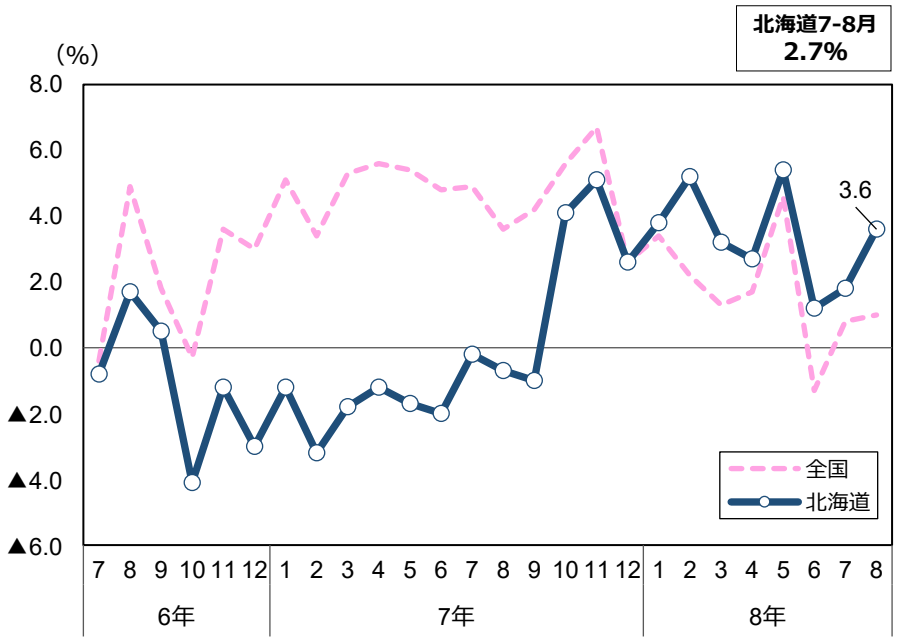
（注） ８年１０月判断は、前回８年７月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

1．個人消費　～緩やかに回復しつつある～

スーパー販売

スーパー販売は、総菜や冷凍食品などの飲食料品が堅調に推移しており、前年を上回っている。

［スーパー販売額（前年同月比）］



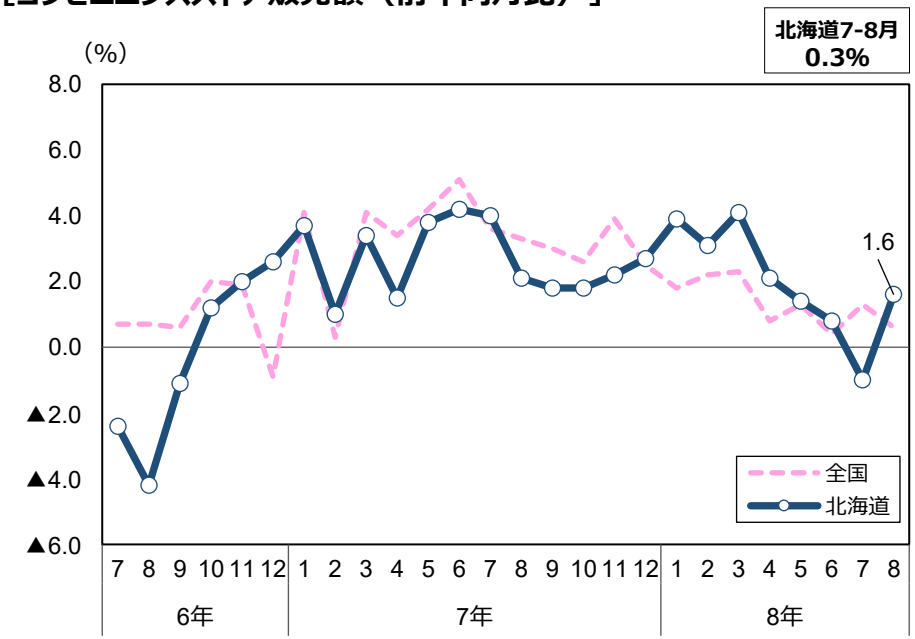
企業の声

- 節約志向がみられる中でも、品質や利便性を訴求した商品は引き続き売行きが良く、価値が認められる商品は価格が多少高くとも購入されている。

コンビニエンスストア販売

コンビニエンスストア販売は、カウンター商品等の需要が堅調であり、前年を上回っている。

［コンビニエンスストア販売額（前年同月比）］



企業の声

- 昨年の猛暑と比較すると、夏場のアイスクリームや飲料水は伸び悩んだものの、カウンターメニューは引き続き堅調であるほか、店内調理などの高付加価値商品は、単価が高めでも動きが良い。

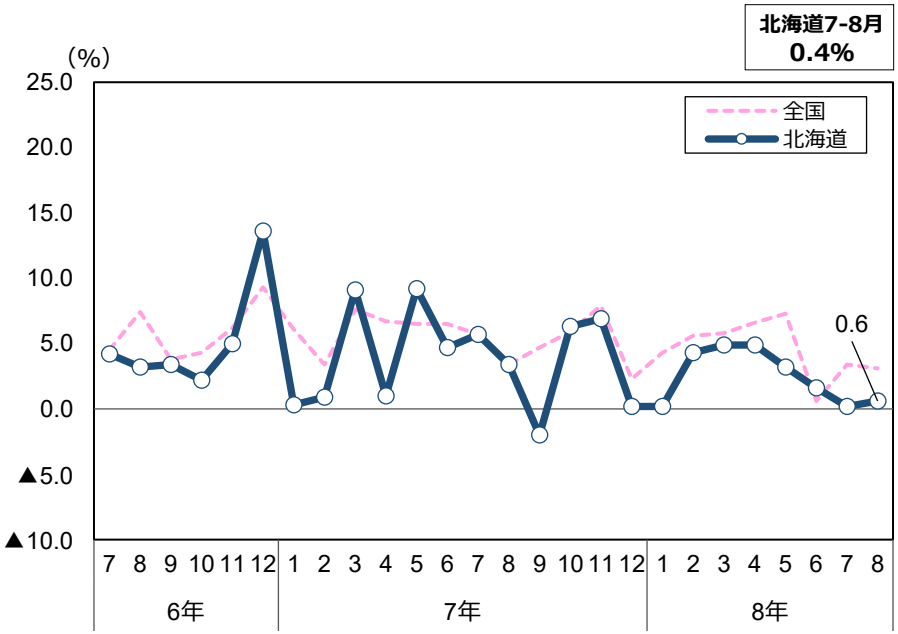
（出所）経済産業省「商業動態統計」を基に当局作成 ※全店舗ベース

1．個人消費　～緩やかに回復しつつある～

ドラッグストア販売

ドラッグストア販売は、飲食料品や日用品の販売が堅調であり、前年を上回っている。

［ドラッグストア販売額（前年同月比）］



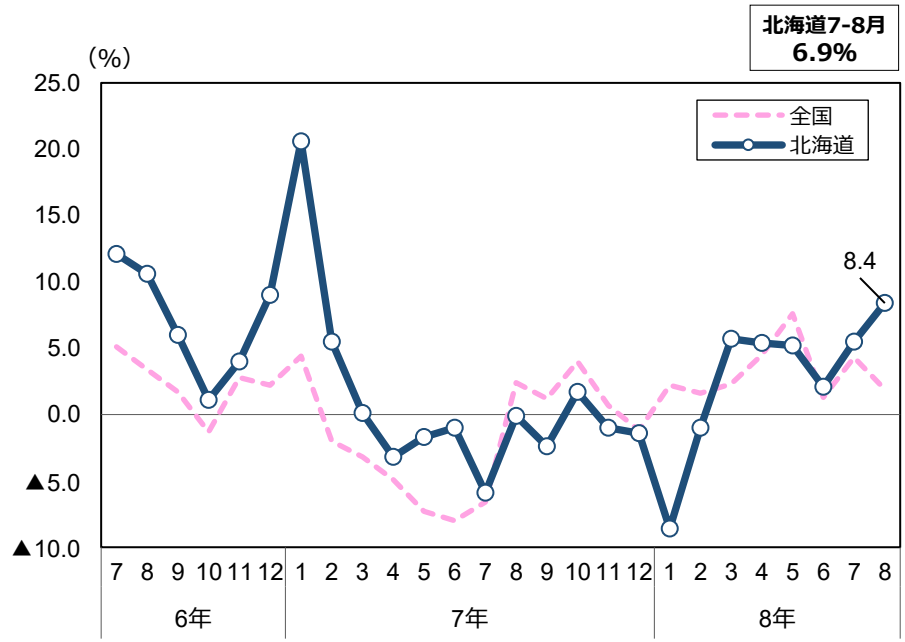
企業の声

- 前年との気温差により、冷感商品や虫よけ用品などの季節性商品は苦戦したものの、一般化粧品などの日常使いの商品は引き続き堅調に売れている。

百貨店販売

百貨店販売は、国内客及びインバウンドともに販売が好調であり、前年を上回っている。

［百貨店販売額（前年同月比）］



企業の声

- 国内客は高額商品の需要が引き続き旺盛であるほか、食料品の販売も堅調。インバウンドは東南アジア客の堅調な需要に加え、韓国や台湾からの来店客の増加が売上げを押し上げた。

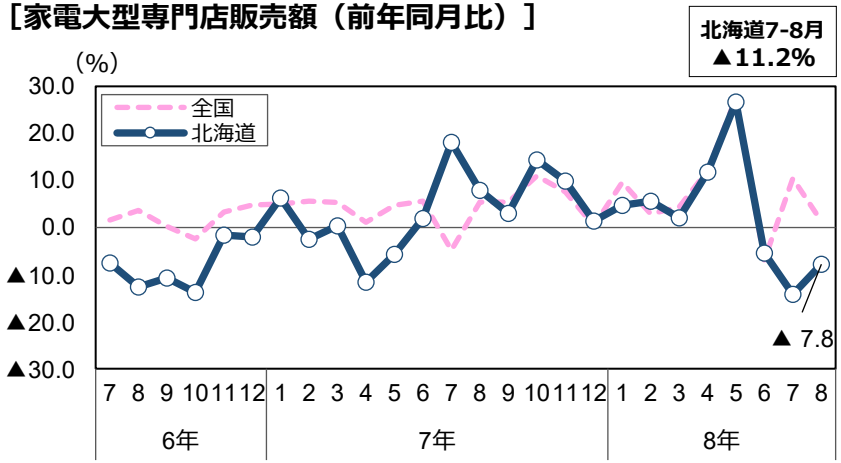
（出所）経済産業省「商業動態統計」を基に当局作成 ※全店舗ベース

1．個人消費　～緩やかに回復しつつある～

家電販売

家電販売は、エアコンやパソコンの販売が低調であり、前年を下回っている。

［家電大型専門店販売額（前年同月比）］

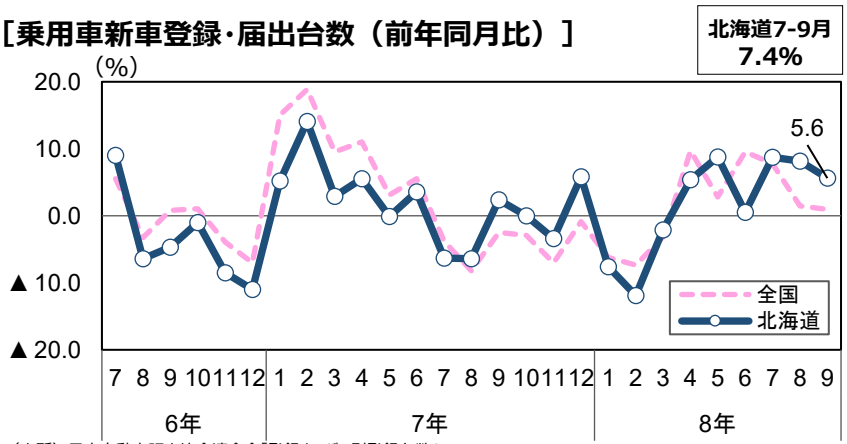


（出所）経済産業省「商業動態統計」を基に当局作成 ※全店舗ベース

乗用車販売

乗用車販売は、新型車投入の効果のほか、納期長期化の改善などもみられ、前年を上回っている。

［乗用車新車登録・届出台数（前年同月比）］

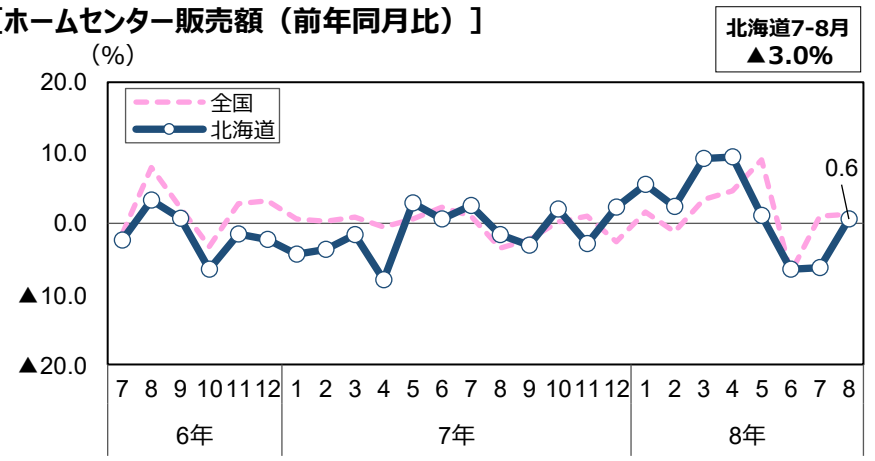


（出所）日本自動車販売協会連合会「登録ナンバー別登録台数」、
全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車新規車種別・銘柄別・都道府県別検査（販売）台数」を基に当局作成

ホームセンター販売

ホームセンター販売は、夏物家電や園芸用品の動きが鈍く、前年を下回っている。

［ホームセンター販売額（前年同月比）］



（出所）経済産業省「商業動態統計」を基に当局作成 ※全店舗ベース

企業の声

【家電量販店】

- ニーズに合致する商品は価格を問わず需要があるものの、エアコン販売が低調であったほか、前年のパソコンの駆け込み需要の反動減などから売上げは減少した。

【ホームセンター】

- 前年より真夏日が少なかったため、エアコンや扇風機のほか除草剤等の動きが鈍かった。一方で、9月は気温の低さから暖房用品の動きが良かった。

【乗用車販売】

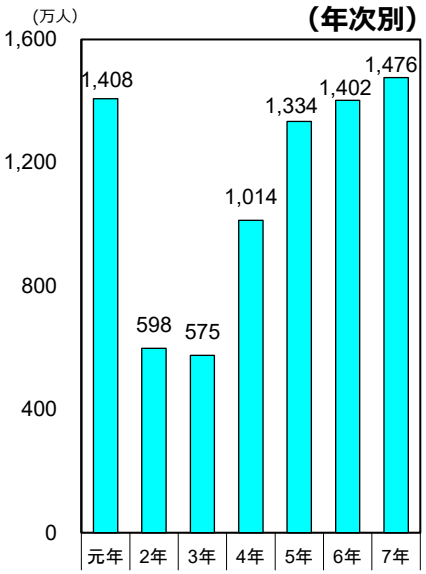
- 新型車の効果により、販売台数は前年を上回る。前期は中東情勢の影響で部品の供給不足が生じ、出荷に支障があったが、現在は解消している。

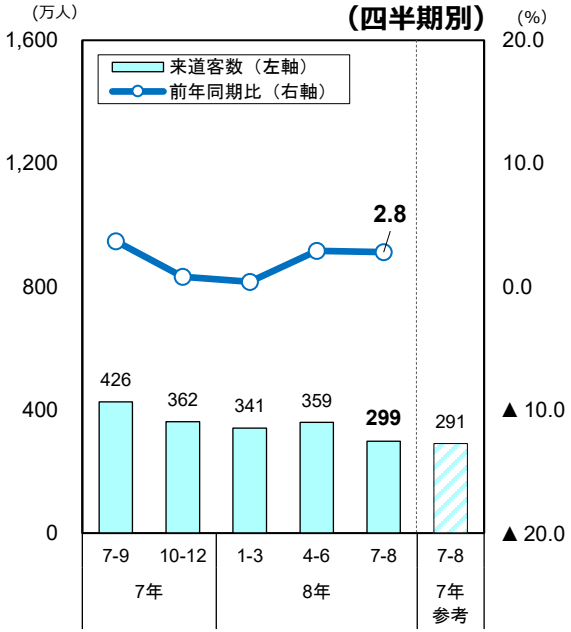
2．観光　～緩やかに拡大している～

観光は、来道客数、外国人入国者数ともに前年を上回っており、緩やかに拡大している。

［来道客数］

※北海道外から航空機（国内線）、ＪＲ（北海道新幹線）、フェリーを利用して北海道入りした旅客数

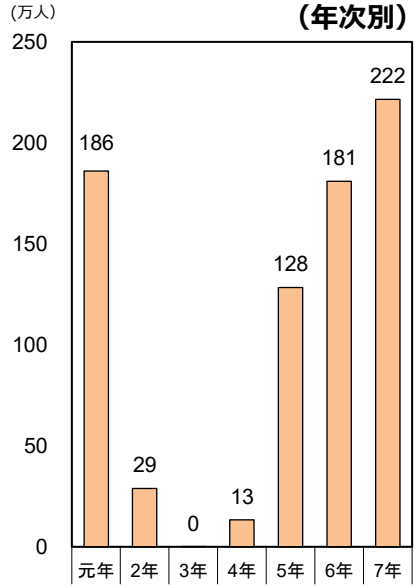


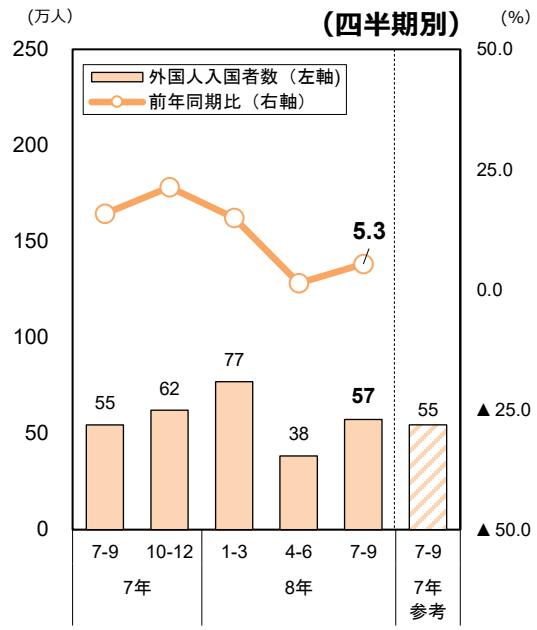


（出所）北海道観光機構「観光統計データ」を基に当局作成

［外国人入国者数］

※北海道内の空港等を利用して入国した外国人を集計





（出所）出入国在留管理庁「出入国管理統計」を基に当局作成（8年8月及び9月は速報値）

企業の声

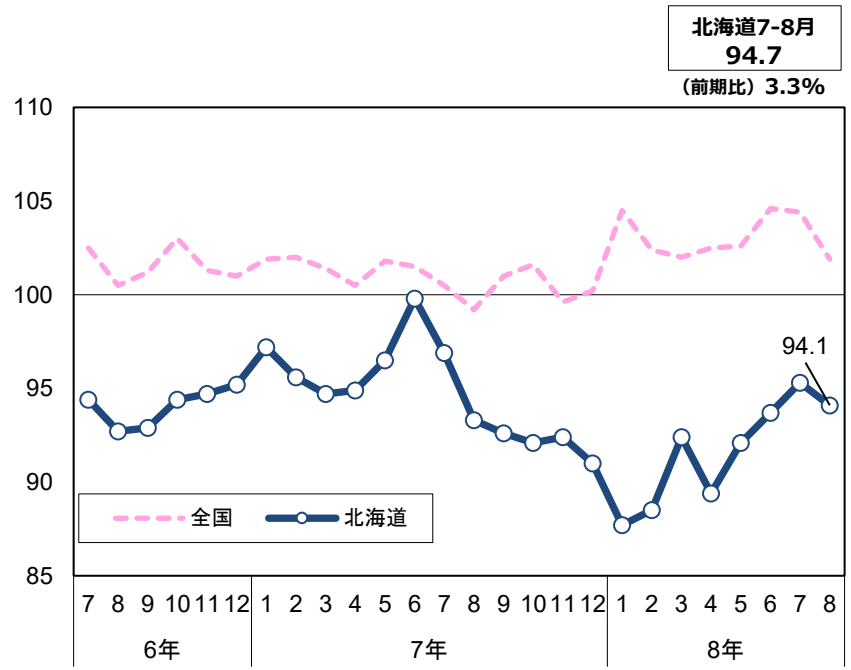
- 来道客数については、円安や燃油サーチャージの高騰を背景に海外旅行から国内旅行を選択する傾向がみられたほか、天候やシルバーウィークの日並びの良さから旅客数が増加している。（運輸）
- インバウンドについては、韓国、香港、シンガポールからの観光客が増加したことに加え、自然体験や避暑地を目的とした中東や欧米圏からの観光需要も高く、好調である。（宿泊）
- 先行きについては、気温低下に伴い温泉地への需要が高まり始めているほか、紅葉シーズンに向けた人気も高く、国内客、インバウンドともに予約状況は前年を上回る見通しである。（旅行）

3．生産活動　～一進一退の状況にある～

生産活動は、「金属」や「鉄鋼」などが増加している一方、「化学・石油石炭」などが減少しており、全体では一進一退の状況にある。

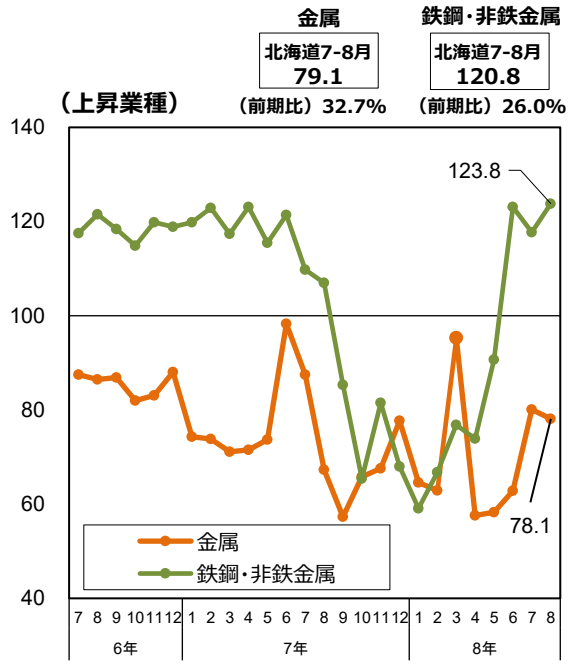
［鉱工業生産指数（季節調整値）］

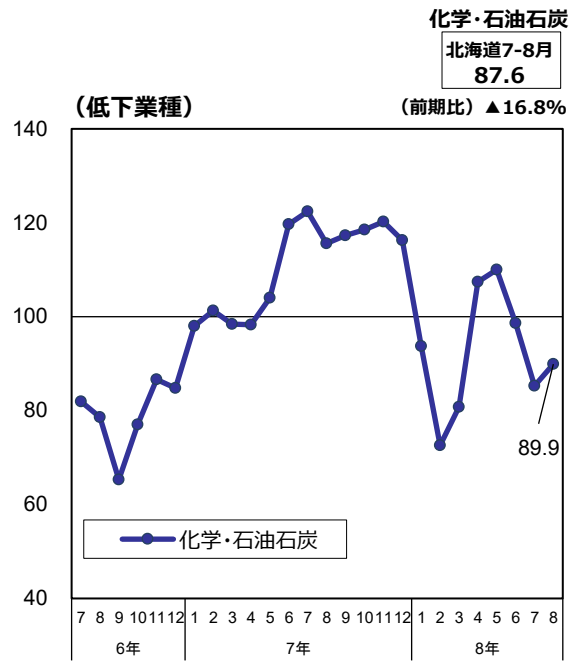
（2020年=100）



［鉱工業生産指数（業種別・季節調整値）］

（2020年=100）





企業の声

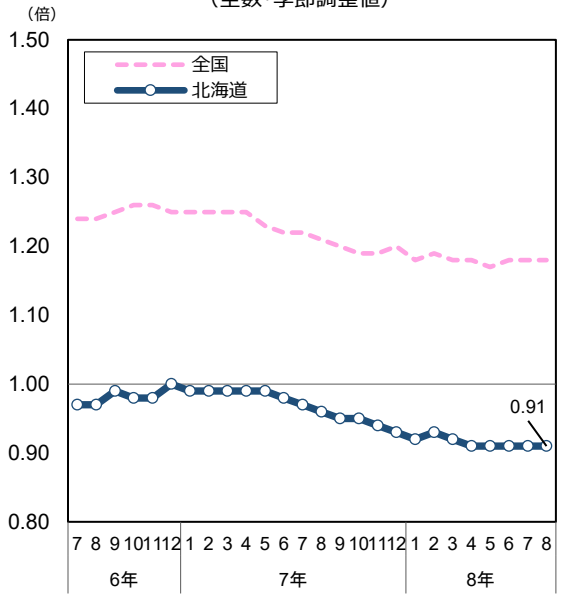
- 北海道新幹線関連の需要が本格化してきているほか、工場改築向けなどの大型案件も受注できており、生産状況は堅調である。（金属）
- 札幌駅周辺再開発に伴う建築向けの出荷が引き続き堅調であることに加え、そのほかの大型案件の受注も例年以上となっていることから生産量は増加している。（鉄鋼）
- 電力関連向けは堅調である一方、住宅向けについては、建設コストの高止まりを背景とした住宅取得マインドの低下に伴い、当社の受注も停滞している。（化学）

（出所）経済産業省、北海道経済産業局「鉱工業指数」を基に当局作成（8年8月（北海道）は速報値）

4．雇用情勢　～持ち直しの動きに一服感がみられる～

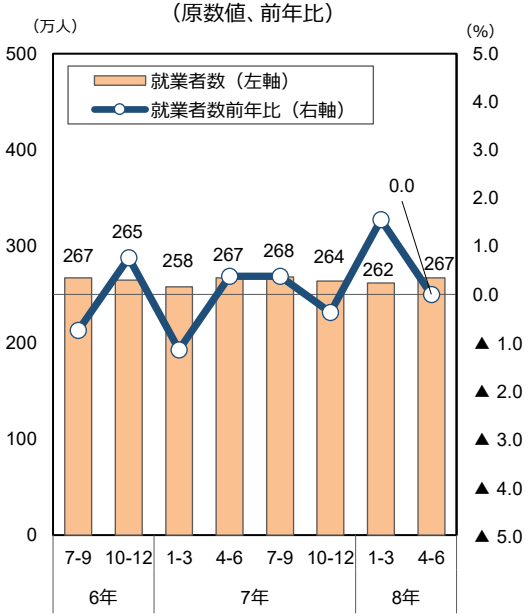
雇用情勢は、人手不足が続く中、人件費増加等を背景として求人の動きに弱さがみられており、持ち直しの動きに一服感がみられる。

［有効求人倍率］
（全数・季節調整値）



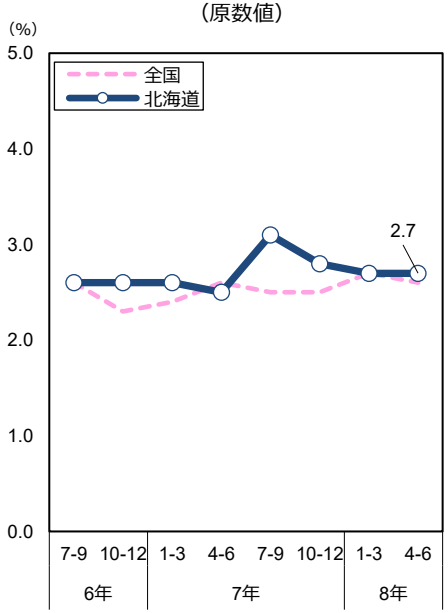
（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

［就業者数］
（原数値、前年比）



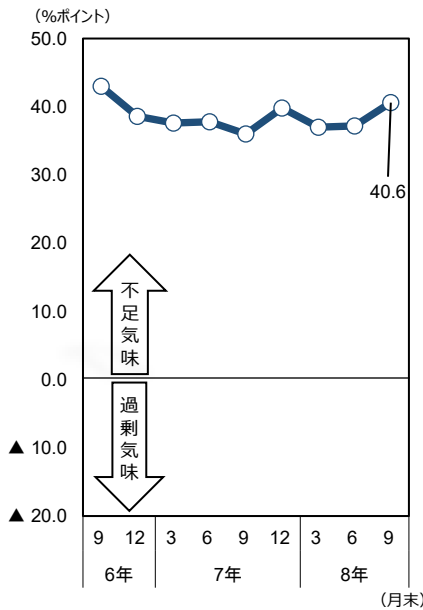
（出所）総務省「労働力調査」

［完全失業率］
（原数値）



（出所）総務省「労働力調査」

［従業員数判断BSI］



（出所）北海道財務局「法人企業景気予測調査」
（注）「不足気味」－「過剰気味」社数構成比

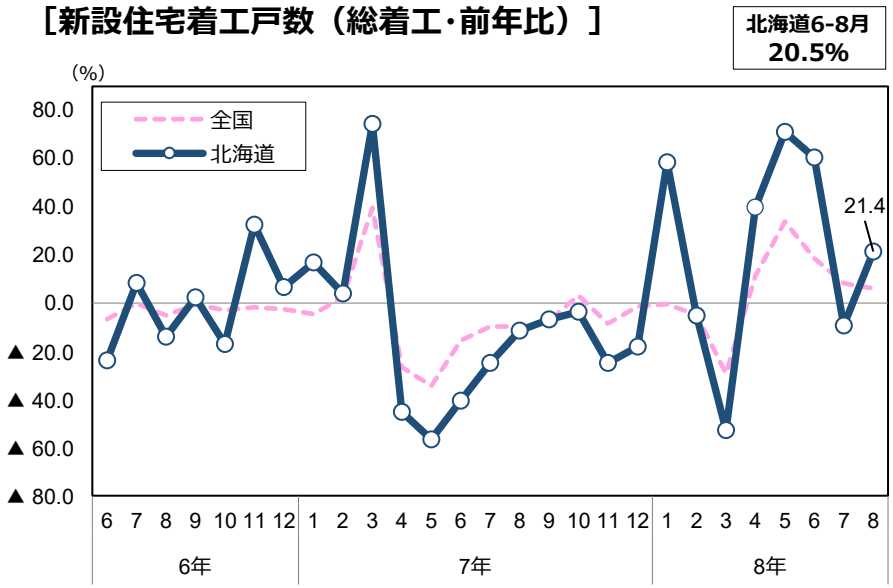
企業の声

- 企業が採用を控える動きのほか、物価高による情勢不安から在職中にも求職活動を開始するケースもみられている。（公的機関）
- 中小企業においては、人件費負担の増加に加え、新規採用に伴う研修・教育コストの負担も大きいことから、新たな採用を控え、既存の人員で対応を図る企業もみられる。（職業紹介・労働者派遣）
- 人材確保策として、専門学校との連携強化や外国人材の採用を進めているほか、外国人従業員向けの動画マニュアル等を活用した教育体制の整備にも取り組んでいる。（飲食サービス）

5．住宅建設　～弱含んでいる～

住宅建設は、持家、貸家、分譲住宅はいずれも前年を上回っているものの、住宅取得需要は依然として低く、弱含んでいる。

［新設住宅着工戸数（総着工・前年比）］



（出所）国土交通省「建築着工統計」を基に当局作成

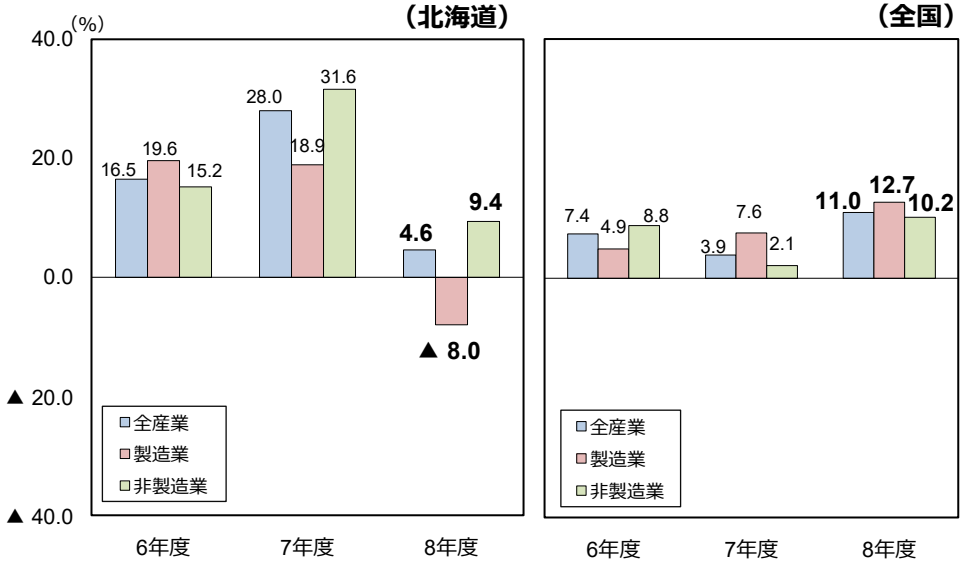
企業の声

- 持家は、中東情勢を背景とした建築資材費の上昇により住宅価格が高止まりしていることに加え、金利も上昇局面にあることから、住宅取得マインドは低下している。（建設）
- 貸家は、需要が底堅く、住宅市場全体を下支えしている。人口集積エリアや再開発エリアを中心に、引き続き投資目的や法人需要が一定程度存在している。（不動産）
- 一戸建分譲住宅は、販売開始から１年程度経過し値下げされた物件への申込が集中し、短期間で成約に至るケースが多く、注文住宅からのシフトがみられている。（建設）

6．設備投資　～８年度は増加見込み～

設備投資を当局の法人企業景気予測調査（８年７～９月期）でみると、８年度は、全産業では増加見込みとなっている。

［設備投資計画（前年度比）］



（出所）内閣府・財務省、北海道財務局「法人企業景気予測調査」

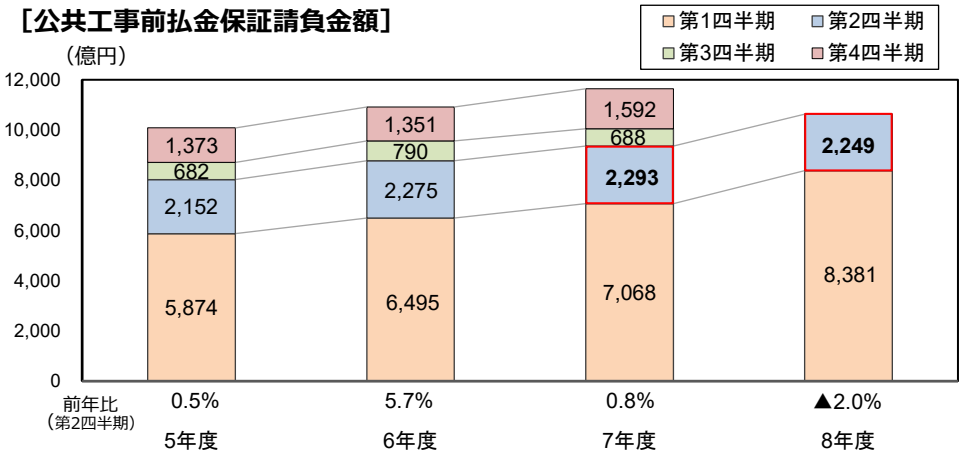
企業の声

- 駅周辺施設の大型投資を見込んでいるほか、老朽化設備の維持更新投資を多めに見込むことから、前年度より増加。（不動産）
- 老朽化に伴う更新や生産能力拡大に向けて再生可能エネルギー等の設備増設を行うほか、業務効率化やサービス向上を目的としたDX投資を行う予定である。（ガス・熱供給・水道）
- 前年度に大型投資があったことから反動減とはなっているものの、今年度も大型更新や基幹システムの更改を見込んでおり、設備投資額は高水準となっている。（食料品）

7．公共事業　～前年を下回る～

公共事業を前払金保証請負金額でみると、第２四半期は、北海道が前年を上回っているものの、国、独立行政法人等、市町村が前年を下回っており、全体では前年を下回っている。

［公共工事前払金保証請負金額］

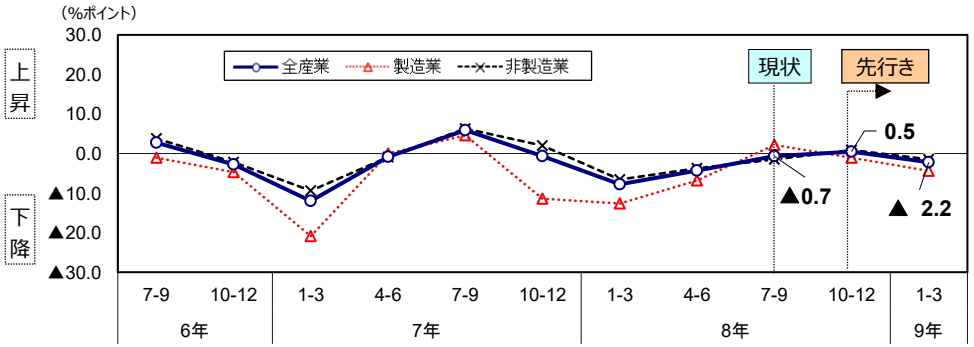


（出所）北海道建設業信用保証株式会社ほか2社「公共工事前払金保証統計」を基に当局作成

8．企業の景況感　～「下降」超となっている～

企業の景況感を当局の法人企業景気予測調査（８年７～９月期）でみると、企業の景況判断ＢＳＩは、全産業では「下降」超となっている。なお、先行きは、８年１０～１２月期に「上昇」超へ転じる見通しとなっている。

［景況判断ＢＳＩ・業種別］（「上昇」-「下降」社数構成比）

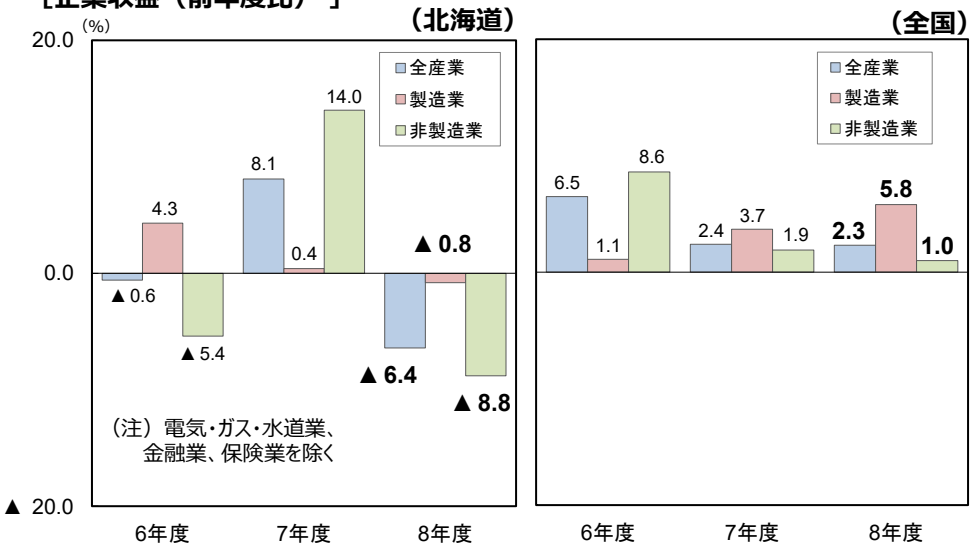


（出所）北海道財務局「法人企業景気予測調査」

9．企業収益　～８年度は減益見込み～

企業収益（除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」）を当局の法人企業景気予測調査（８年７～９月期）でみると、８年度は、全産業では減益見込みとなっている。

［企業収益（前年度比）］



（出所）内閣府・財務省、北海道財務局「法人企業景気予測調査」

１０．金融　～貸出金残高は前年を上回る～

１１．企業倒産　～前年を上回る～

１２．消費者物価　～前年を上回る～